

福島第一原子力発電所 既設多核種除去設備(A) 出口移送スキッドにおける漏えいについて

< 参 考 資 料 >
2 0 2 0 年 3 月 3 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 昨日（3月2日）、午後10時43分頃、漏えい警報 既設多核種除去設備出口移送スキッドA が発生し、当社社員による現場確認の結果、処理水移送弁点検のため弁本体を取り外していたが、下流側弁がシートパスしており、運転していた既設多核種除去設備（B）（C）系から処理水が逆流して取り外した箇所から漏えいしていることを当社社員が発見しました。
- 漏えいした水は堰内に留まっており、漏えい範囲は、堰内溜め柵内約20cm×20cm×深さ7cm、堰内で約6m×2.5m×深さ1mm。既設多核種除去設備（B）（C）停止後、漏えいは3秒に1滴程度で、漏えい箇所をビニール養生して滴下を受けています。滴下した水については、拭き取りを完了しております。

※当該系統水の分析結果：全ベータ： 2.3×10^3 Bq/L セシウム134:検出限界値未満

セシウム137: 3.1×10^1 Bq/L （3月2日採取）

- また、この漏えいに伴い、敷地周辺モニタリングポスト、連続ダストモニタに有意な変動はありません。
- 本日（3月3日）、取り外していた弁の復旧を実施予定です。

